

# REDD+のフェーズアプローチにおける コミュニティのキャパシティビルディングの必要性 —A/R CDMからの考察—

---

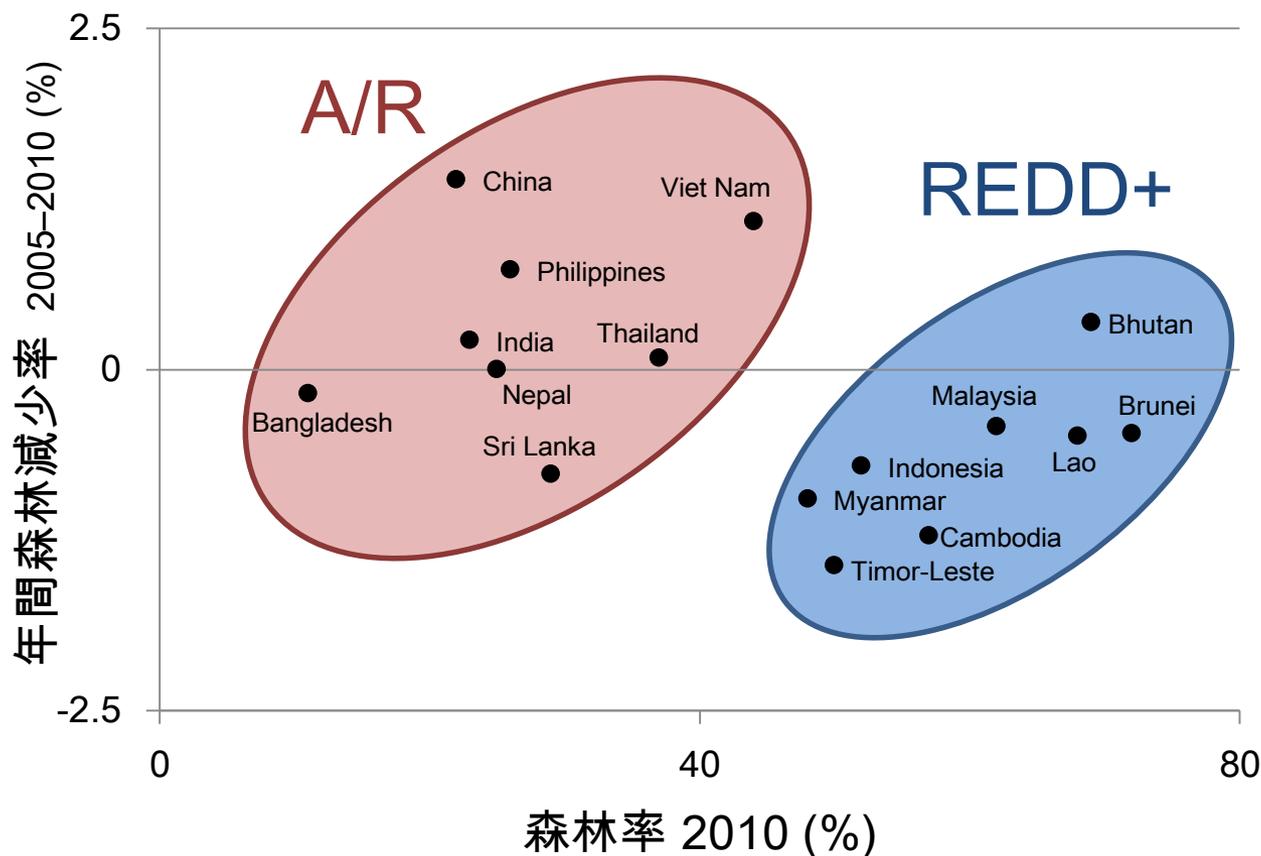
山ノ下麻木乃 & 天野正博

(財)地球環境戦略研究機関 (IGES)

早稲田大学人間科学学術院

# ARとREDD+両方必要

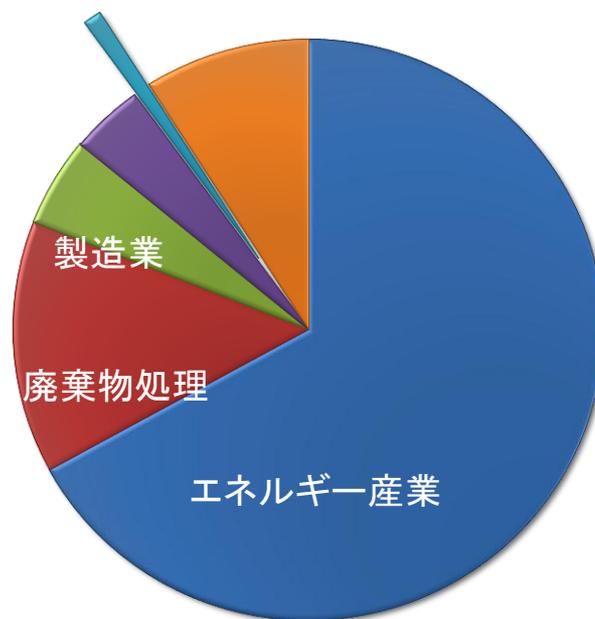
- 各国の森林の現況は異なる＝適切な森林政策は異なる
- ポスト京都の森林関連の温暖化対策で、公平性を確保するためには、A/RもREDD+も必要



# A/R CDMは効果的に活用されていない

- A/R CDMはREDD+に先駆けて京都議定書第一約束期間に実施
- A/R CDMは全体の約1%のみ
  - 植林は低コストな地球温暖化対策
  - 植林プロジェクトはLDCs・農村部で実施可能として注目されていた

A/R CDM 31件



CDM 3500件

A/R CDMの期限付きクレジットの価格の低さが原因と言われてきたが、それだけが原因なのか？

# ベトナムの登録された 小規模A/R CDMプロジェクトを調査

## 目的

- 現在のA/R CDMという制度の問題点を、コミュニティの能力に着目し明らかにする

## 調査対象地(ベトナム・ホアビン省カオフォン県)

- 小規模A/R CDMプロジェクト(Cao Phong Project)の対象地に含まれているN村

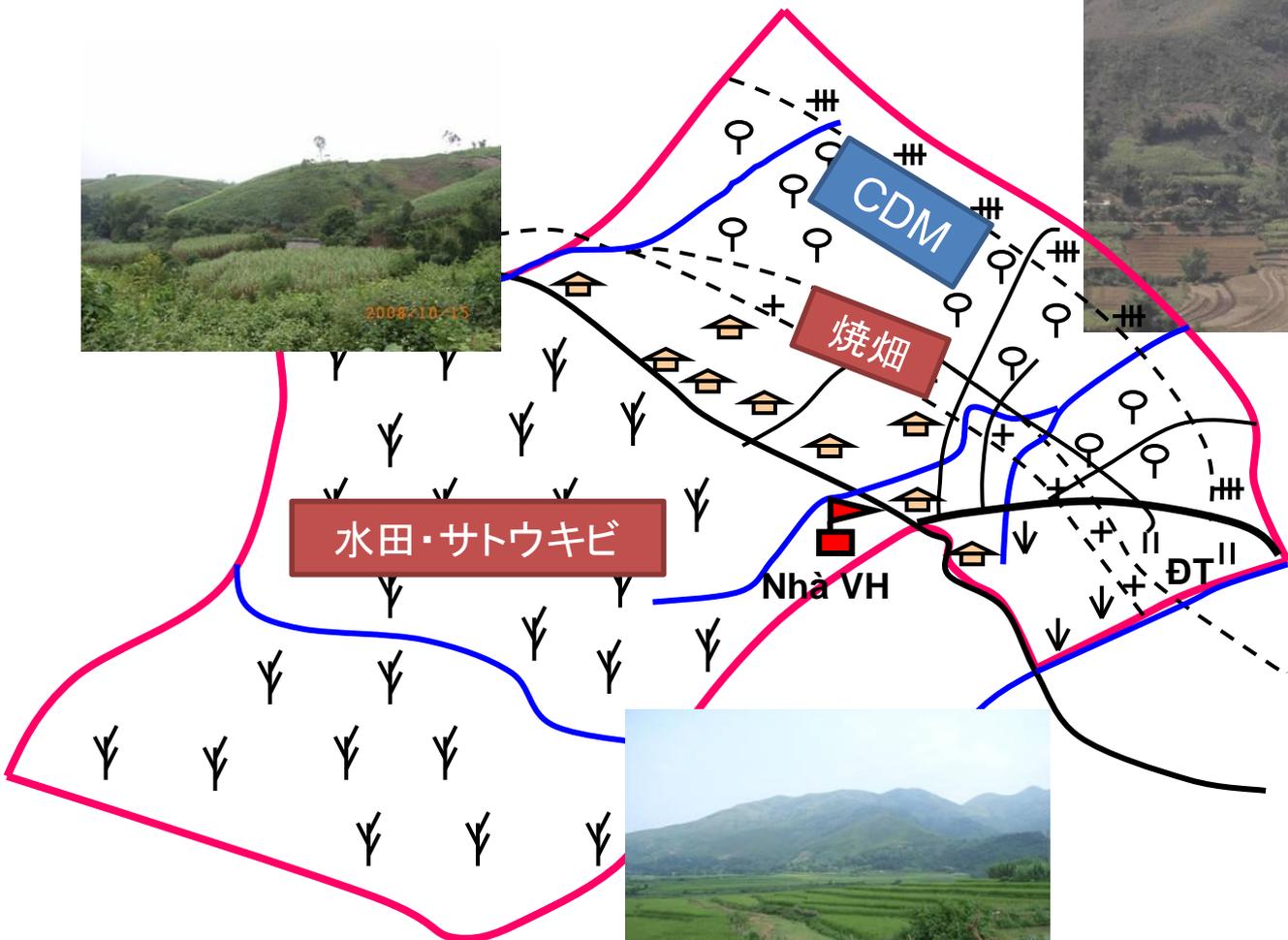
## 調査方法

- PRA、質問紙インタビュー調査、ワークショップ



# 調査対象村

Cao Phongプロジェクトに参加しているN村



# プロジェクト開始前の土地利用

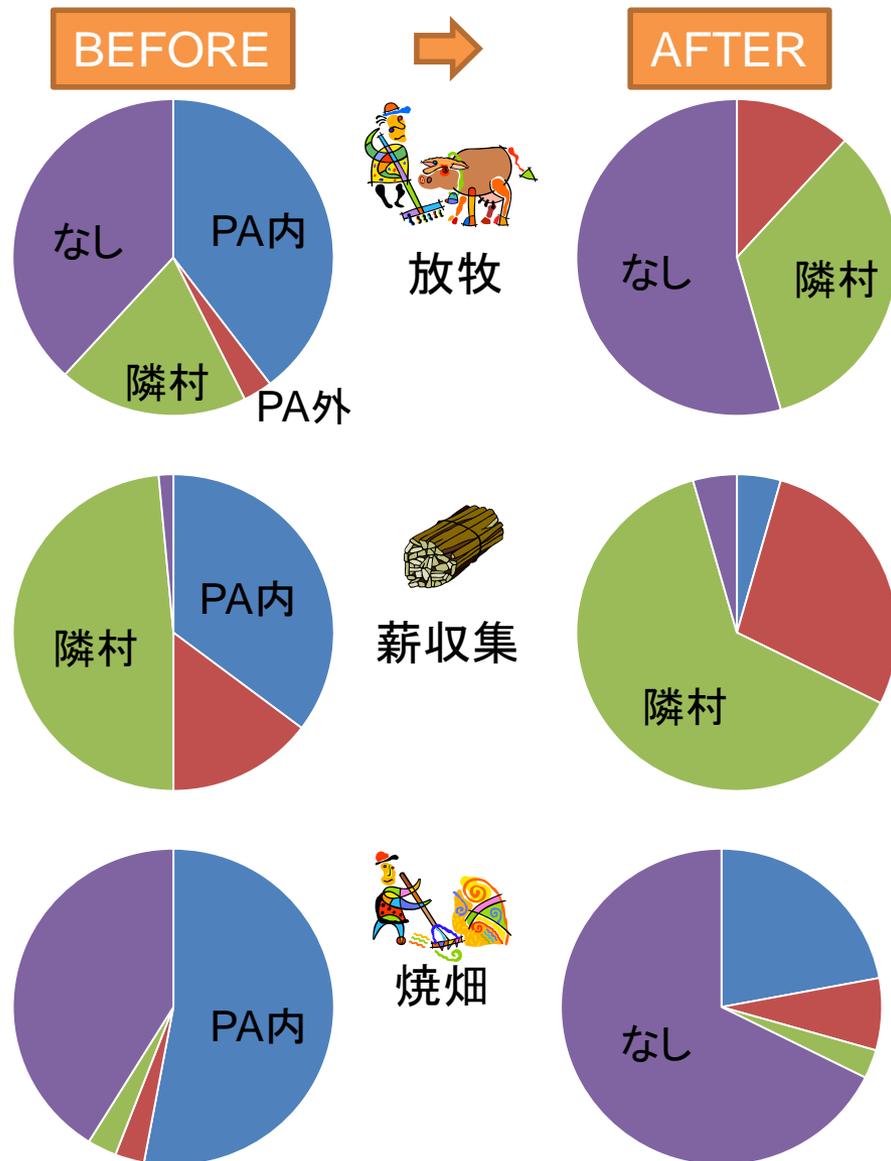


- 土地使用权は**住民に配分**されていた
- 実際には**慣習的に誰もが自由**に使うことができた
- プロジェクトは法的な土地使用权を尊重し、**権利所有者をプロジェクト参加者**にした

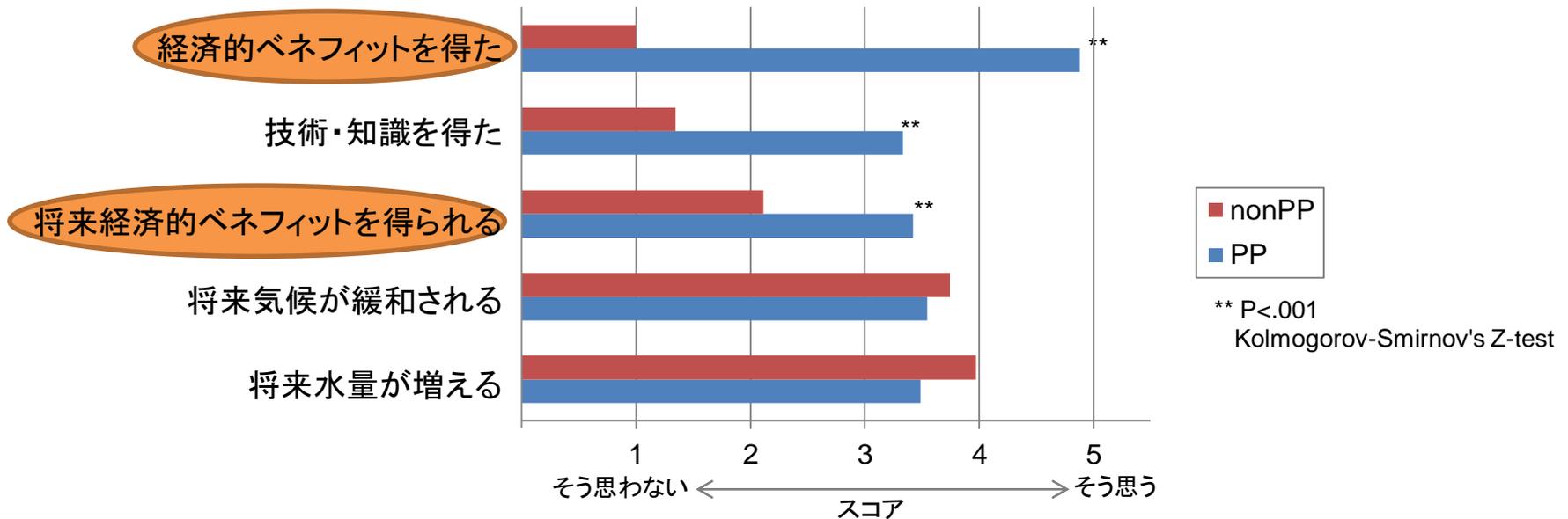


# リーケッジのリスク

- 荒廃地でも住民は生活を依存していた
- 植林は大きな土地利用変化を伴う
- プロジェクト実施で、村人の活動は大きく変化していた
  - リークエッジのリスク
  - 住民に負担を生じている
    - 放牧・薪収集: より遠くに行く
    - 放牧・焼畑: あきらめる・収入減少
- プロジェクト参加者も非参加者も影響を受けていた



# 森林の非永続性(プロジェクトの持続性)のリスク

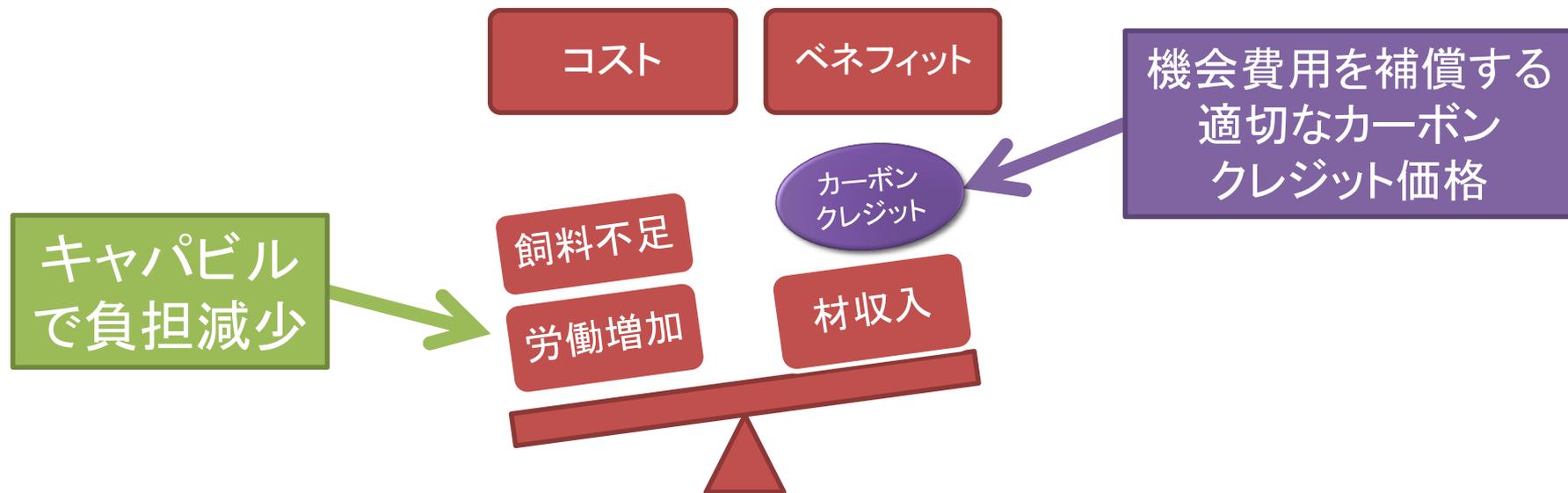


- 経済的なベネフィットはプロジェクト参加者のみが享受
  - プロジェクトの負担は非参加者も
- 非参加者の森林管理のインセンティブは低い(森を壊す人に?)
  - プロジェクトが持続しない可能性
  - コミュニティ内の格差拡大の可能性

ステークホルダー全員の参加が必要

# キャパシティブルディングの必要性

困ったら、  
植林をやめて  
放牧を再開するかも・・・

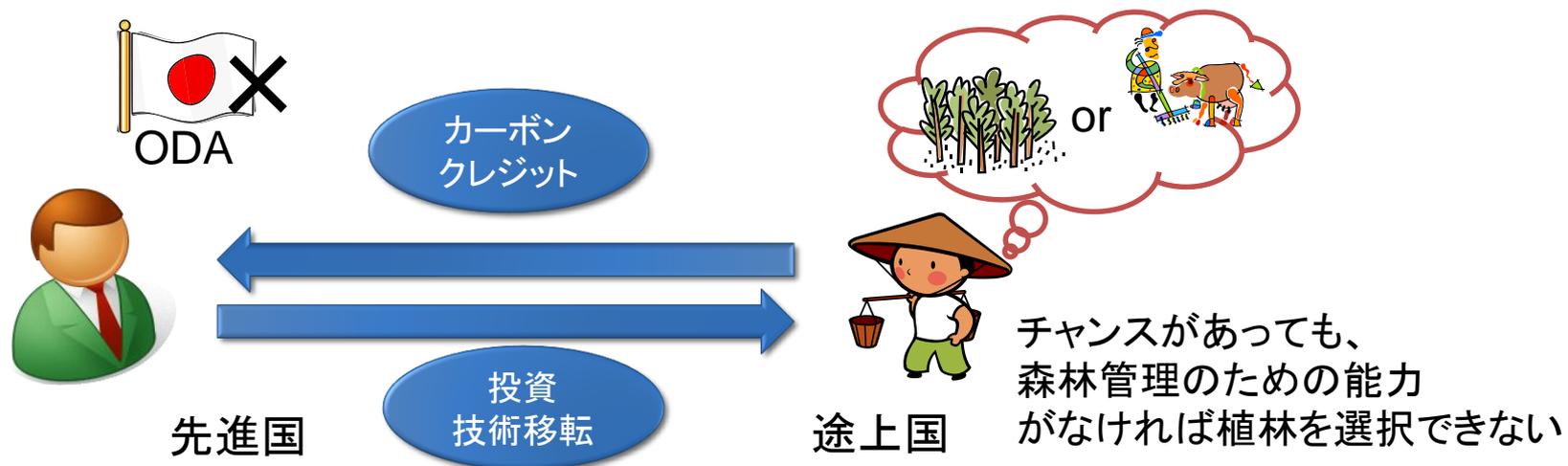


非永続性・リーケッジリスクの低減には

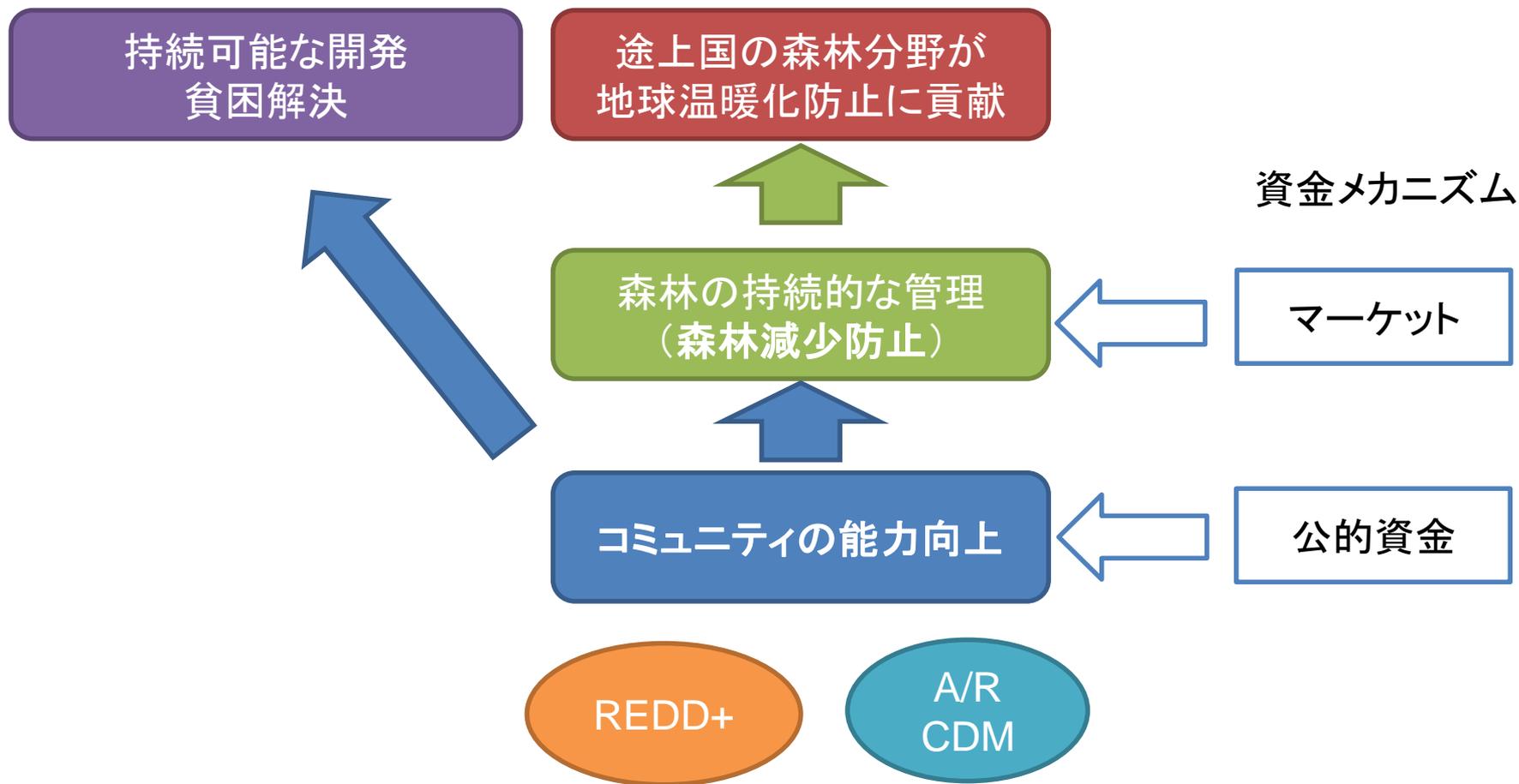
- ・プロジェクトへの貢献に見合ったベネフィットシェアリング
- ・コミュニティの森林管理のためのキャパシティブルディング
  - ・森林管理技術に加え
  - ・農業技術、土地利用計画、合意形成(意思決定参加)

# A/R CDMの問題点

- **キャパビルができなかった**
  - コミュニティの能力が低いとリーケッジ・プロジェクトの失敗リスクが高い
  - 能力のないコミュニティは機会を活かせない
- **キャパビルの資金が準備されなかった**
  - すべてマーケットで資金調達しなければならなかった
  - ODA(公的資金)の流用の禁止 (キャパビルの資金ソース)
  - 競争的、効率性が求められる (キャパビルは評価されにくい)
  - 期限付きクレジットは低価格

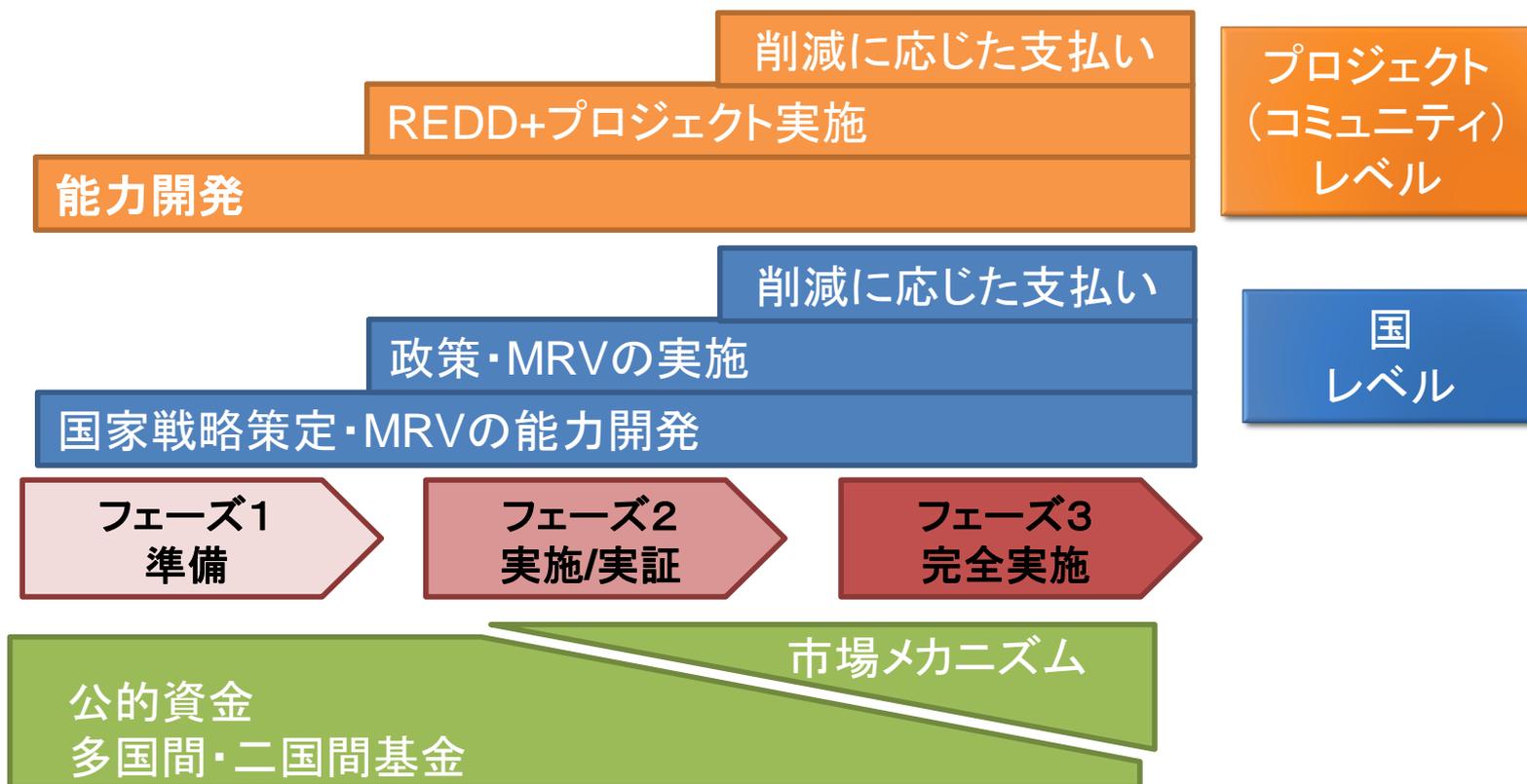


# REDD+でも、森林減少を止めるためには、 コミュニティのキャパビルが重要



# REDD+のフェーズアプローチ

- 国レベルのMRVシステム構築のステップとして重視されている
- 森林減少防止のための能力開発のステップとしても重要なアプローチ
  - プロジェクトレベル(ボランタリーマーケット・二国間制度)でもフェーズアプローチが必要

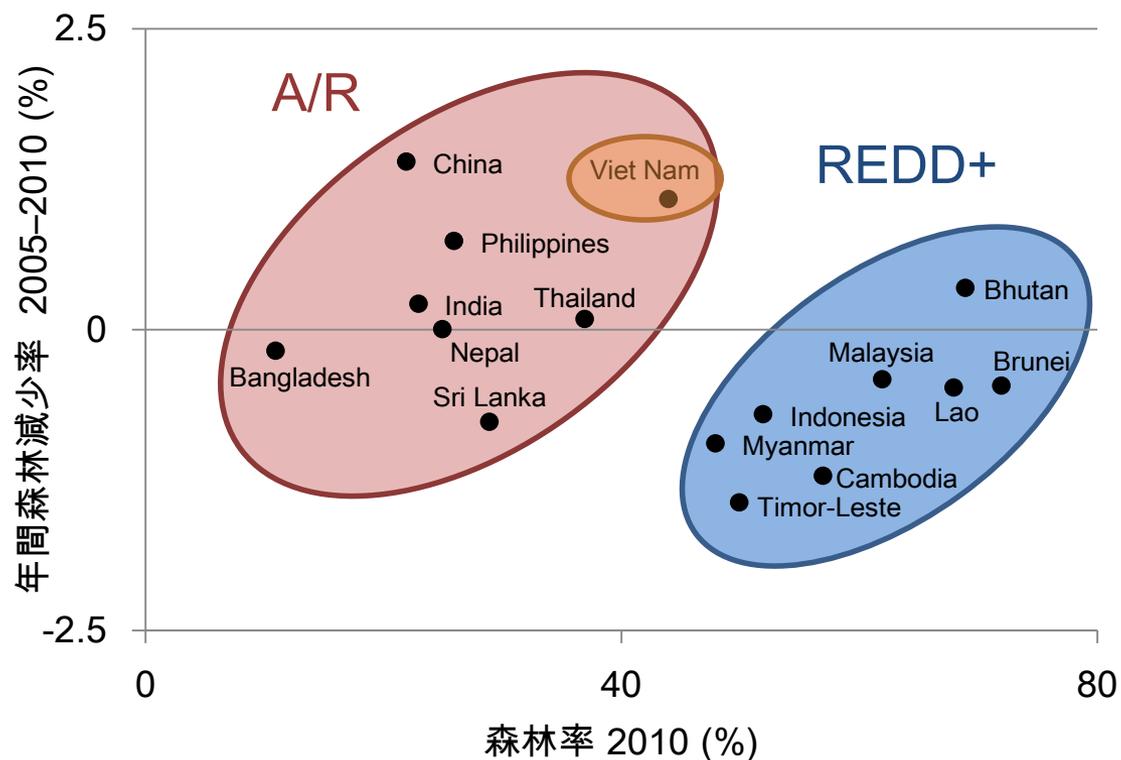


# 例えば

## ベトナムでは、REDD+もA/Rも両方重要

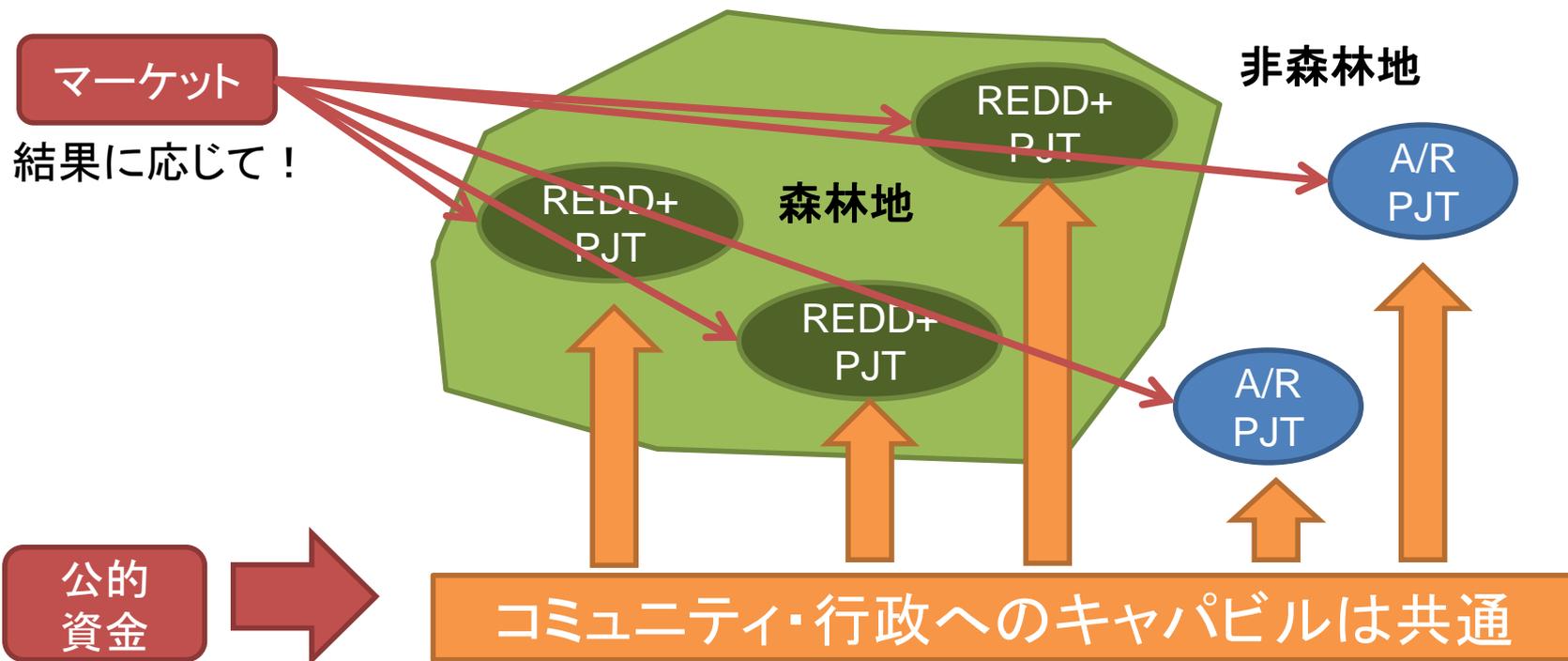
ベトナムで効果的な森林分野の温暖化対策を実施するには

- すでに失われた森林の回復(国の植林政策)
- 残された天然林の減少防止



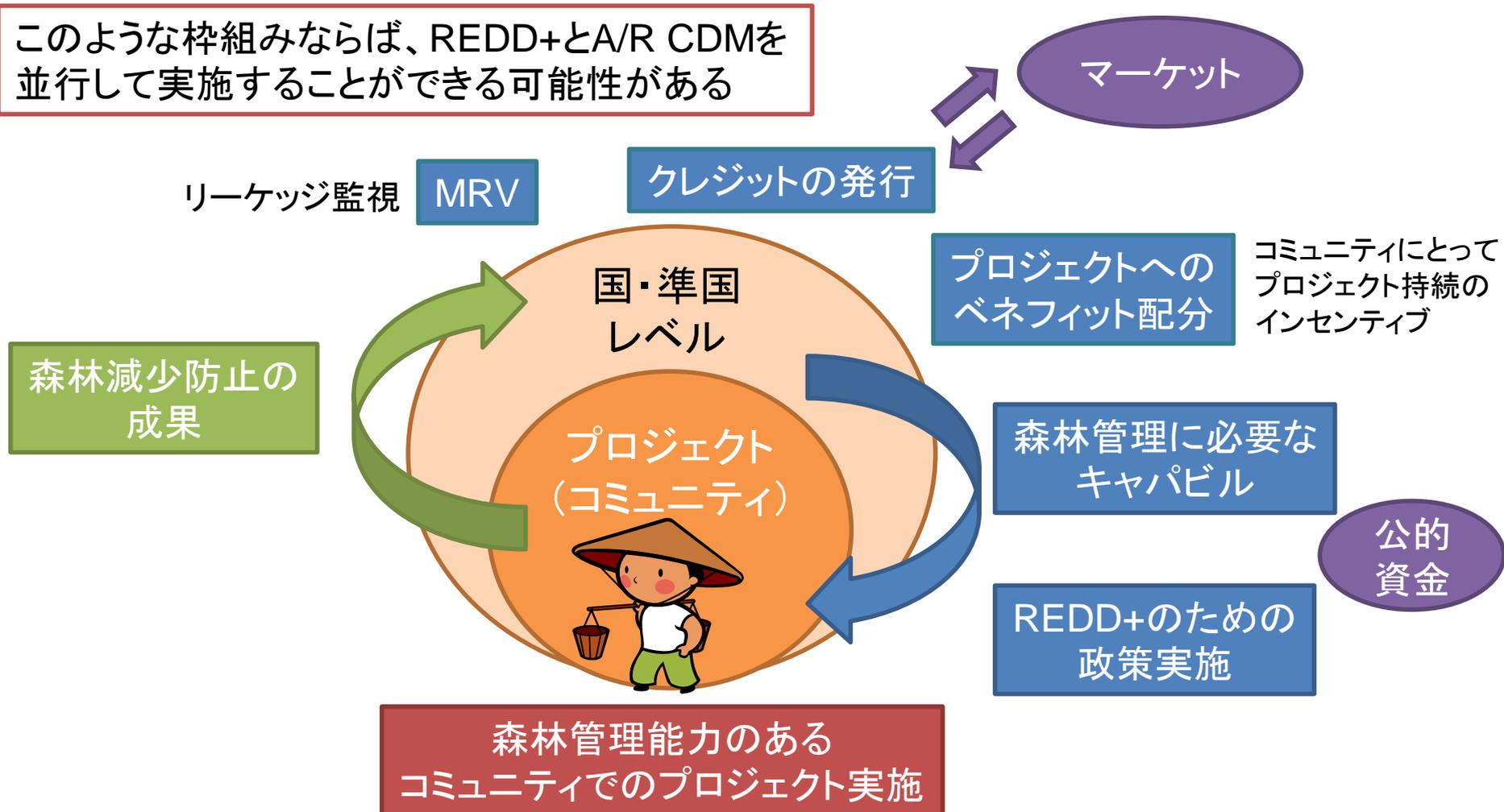
# REDD+とA/Rを同時に実施するのが望ましい

- キャパビルにはODAなど公的資金を投入
- "result oriented"でマーケットからのカーボンへの支払い
- 参加を確保、公平な制度
  - 「REDD+国とA/R国」の間でも同様に考えられる



# REDD+クレジットの発行は国レベル、 森林減少防止活動の実施はプロジェクトレベル

このような枠組みならば、REDD+とA/R CDMを  
並行して実施することができる可能性がある



# ポスト京都の森林関連の温暖化対策(提案)

- すべてのステークホルダーの参加が必要
  - REDD+とA/R両方を効果的に活用する必要がある
  - 公平性の確保
  - 共通のキャパシティビルディングによるsustainable development
- コミュニティの能力向上が必要
  - コミュニティの森林管理の能力はカーボンに直接関係する
  - クレジットの発行は国レベルでも実施活動はプロジェクトレベル
- 「クレジットの国レベルでの発行」という長期的な展望の中で、フェーズの積み重ねが必要
  - コミュニティのキャパシビルから実際のカーボンプロジェクトの実施へ
  - ファンドベースからマーケットメカニズムへ

# Thank You

---

IGES ワークショップ  
「森林セクターのMRV  
ーカーボンからセーフガード」  
来週、10月19-20日、東京  
興味のある方はご連絡ください

